

年始のとある日、島根県の3つの神社（八重垣、須佐、物部）に行く機会がありました。今年一年間を無事に過ごせますようにと祈念してきました。また、どんな一年になるかと「おみくじ」引きましたが、なんといずれも「大吉」。実に単純な人間です。今年が良いことがあるぞ」とほくそ笑みながらの帰路となりました。

1月23日（月）、高校1年生の「弁論大会」が1年間取り組んだ“平和学習”のまとめとして行われました。広島と戦争と平和ということ 키워ドにして、クラス代表から選抜された4名の弁士が演壇に立ちました。平和資料館を見学したこと、被爆者語り部から伝えられたこと、ロシアのウクライナ侵攻に思うことなど、様々な視点で堂々と訴えていました。（右は、最優秀賞生徒の弁論）



一流を目指す

1月7日（土）、3学期の始業式が行われ、生徒・教職員に向けて次のような話をしました。

（前略）「年が改まりました。ひとつの節目を迎えることとなります。人は新年や誕生日、進級などの節目を迎えるにあたって、『これまで以上によくなりたい』と目標を立てることと思います。みなさんは、どんな目標を立てたでしょうか。『よくなりたい』という目標を立てることは大切なことだと思うのですが、それは、たとえ目標の達成が叶わなかったとしても、達成に向かうプロセスがその人の成長に繋がっていくからなのです。さて、いかがですか。

ところで、私の目標についてです。みなさんの前で披露しなくてもいいかもしれませんが、『有言実行』という言葉があるとおりに、宣言？ することで目標を達成する努力を忘れないようにしたいので、あえて触れさせてください。私の今年の目標は、『一流になること』です。一流とは、その分野で一級品であること、一級品になることだろうと思いますが、どんな一流かという、外面的なものや見栄えといったことではなく『内面』における一流になることです。己の姿勢や心を磨き、確実な軸を作って想いを込めた生き方をすることです。このことは、かなり前から思っていることなのですが、改めて今年の目標にします。

実は、2015年から『抄録帖』というノートを作っています。もう3冊目に入っていますが、本や雑誌、新聞などを読んだ後、気になる言葉や文章を書きとどめているものです。その中に、福岡ソフトバンクホークス前監督・工藤公康氏の言葉を見つけました。ある雑誌の対談で述べていた言葉を書きとどめていました。

『一流の人は、ものの見方や考え方、実行の仕方が柔軟かつ強靱で、それに加えて謙虚さを持ち合わせている。二流の人は、一つの見方や考え方、実行の

仕方しかできず、想いが弱くてすぐに他人に頼ろうとします。三流の人は、見ない、考えない、実行しない。何事にも他人のせいにし、他人の言うことを聞きません』というものです。みなさんはどれに当てはまりますか？ 私はこんな一流の人になりたいと思います。まだまだ足りないところはあると承知しています。さらに積み上げていかなくてはならないと思っています。

じゃあなぜ、一流を目指そうとしているのでしょうか。それは、『幸せ』になりたいからです。『幸せ』には人それぞれのカチがあるでしょうが、内面的な一流になることによって、願いや想いが叶えられるといった素敵なことが待ち受けているように思っています。そう簡単なことではありませんが。

さあ、始動しました。みなさん、それぞれ目標を立てて、その目標に向かって進んでいきましょう。

以上が始業式での講話でした。一流の人は「ものの見方や考え方、実行の仕方が柔軟かつ強靱で、それに加えて謙虚さを持ち合わせている」。この“柔軟かつ強靱、謙虚さ”を備えることは、簡単なことではありません。思うようにできるものではありません。しかし、これまでの人生を振り返ってみると、こうした人に出会っているのです。その人に出会い、その人と繋がることによって視野を広げることができました。そして、生きることや学ぶことの尊さ、利他の想いを深められました。他者にそうした価値観を無理押しするつもりはさらさらありませんが、できるなら、意気に感じていただける人と協働できることを心から念じています。

誰もが「幸せ」であることを願います。しかし、それは着飾ったもの、その場凌ぎのものであっては無意味なはず。内面から湧き出るような幸福感に満たされなければ「本当の幸せ」とは言えません。一流を目指すことで是非とも叶えていきたいものです。